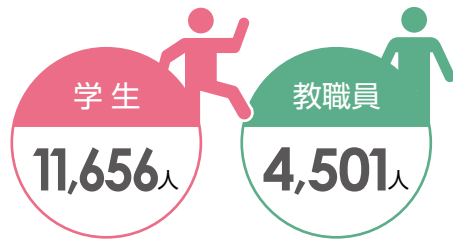


熊本の概要

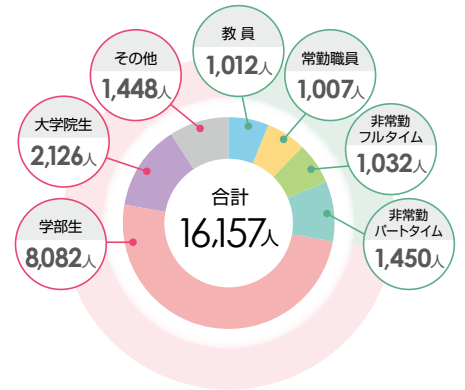
基本情報

熊本大学の概要について

熊本大学では約**16,000**人が活動しています。

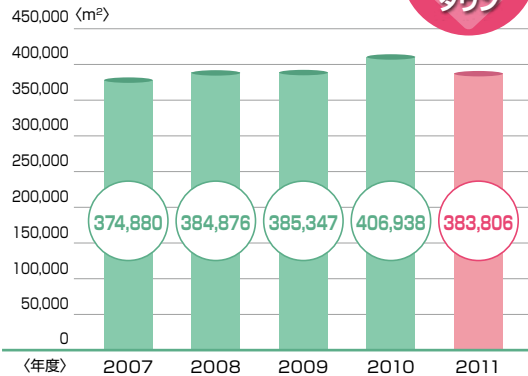


■ 構成員数 (2011年5月1日現在)



■ 延床面積

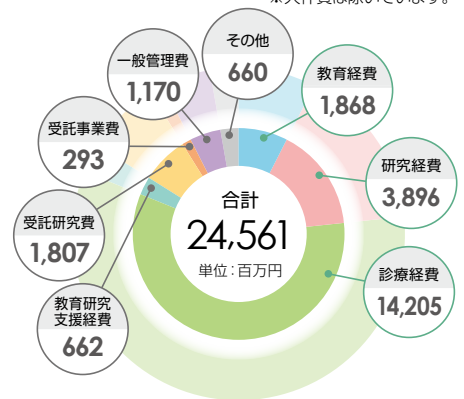
エネルギーを使用する建物の床面積
〈過去5年間に於ける延床面積の推移〉



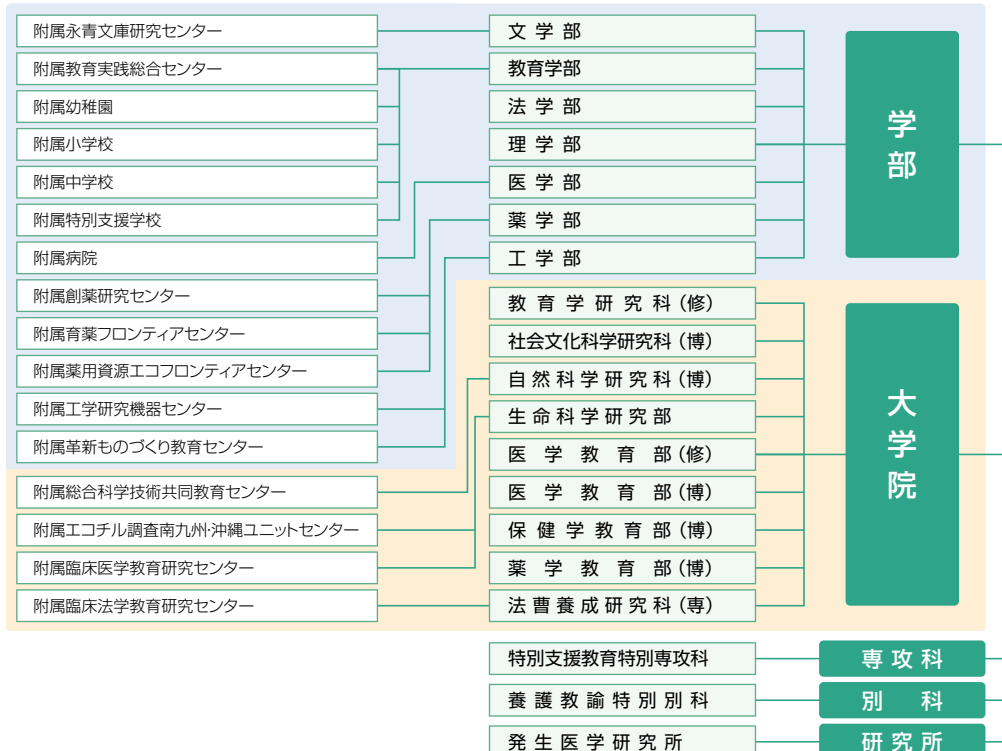
※当該年度の次年度5月現在で算出 ※当該年度に竣工しなかった建物及び竣工したが未供用の建物は、未完成面積として除外
※職員・学生宿舎は除外(但し、看護師宿舎は病院施設として面積に計上)

■ 財政 2011年度経常費用

※人件費は除いています。



組織図



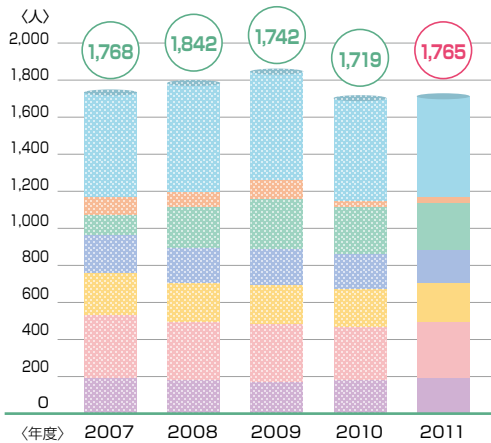
(2012年3月31日現在)

熊本大学

卒業生

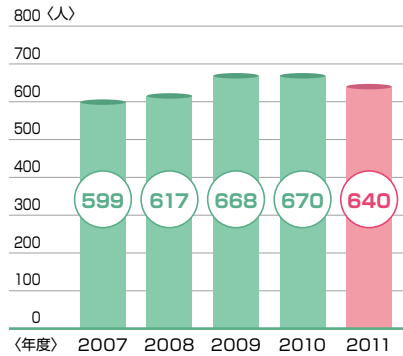
卒業生数(学部相当)

■ 文学部 ■ 教育学部 ■ 法学部 ■ 理学部 ■ 医学部 ■ 薬学部 ■ 工学部

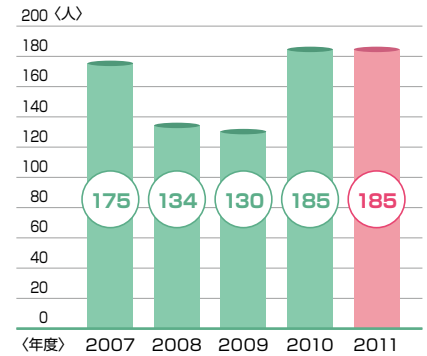


2011年度は2,590人が卒業しました。

修了者数(修士課程相当)



修了者数(博士課程相当)



附属病院を有する総合大学38大学中における大学の構成員数/大学の延床面積

2010年度データ

えこあくと
column no.01

●構成員数の多さ

- 1位 東京大学
- 2位 大阪大学
- 3位 京都大学

熊本大学
15位/37大学

※注1

●延床面積の大きさ

- 1位 東京大学
- 2位 京都大学
- 3位 九州大学

熊本大学
14位/28大学

※注2

※2011年度に公表された環境報告書のデータから調べました。 ※注1: 国立大学法人であり環境報告が義務付けられている大学において、附属病院を有する総合大学は38大学あります。ただし山形大学は、環境報告を冊子体としてまとめていませんので37大学を調査対象としました。 ※注2: 国立大学法人であり、附属病院を有する総合大学は38大学ありますが、筑波大学、群馬大学、新潟大学、富山大学、山梨大学、岐阜大学、島根大学、愛媛大学、高知大学は2011年度の環境報告書から延床面積に関する情報を調べることができませんでした。

「くらしと環境入門」調べ

学内共同教育研究施設

- 大学院先導機構
- イノベーション推進機構
- 国際化推進機構
- 教養教育機構
- 総合情報基盤センター
- 国際化推進センター
- 大学教育機能開発総合研究センター
- 政策創造研究教育センター
- 五高記念館
- eラーニング推進機構
- 沿岸域環境科学教育研究センター
- 衝撃・極限環境研究センター
- 先進マグネシウム国際研究センター
- 生命資源研究・支援センター
- エイズ学研究センター
- バイオエレクトロニクス研究センター
- 環境安全センター
- 埋蔵文化財調査センター
- 附属図書館
- 保健センター

合津マリンステーション

医学系分館

薬学部分館

2011年度の組織の沿革

- 6月 「工学部附属ものづくり創造融合工学教育センター」を「工学部附属革新ものづくり教育センター」に改組
- 8月 「教養教育実施機構」を「教養教育機構」に改組
- 10月 埋蔵文化財調査センター設置
- 12月 先進マグネシウム国際研究センター設置

各サイトの位置と詳細情報

熊本大学は12の地区で **教育** ・ **研究** ・ **医療** が



■ 黒髪北サイト (黒髪北地区、黒髪東地区、城東地区)

教養教育が実施され、多くの学生が集中する場所です。附属図書館や福利施設(学食など)が整備されており、勉学にとって最適な場所となっています。またグラウンド(武夫原)や体育館、プール、学生会館、部室などがあり、部活動やサークル活動が活発な場所です。部局としては、文学部、教育学部、法学部がこの地区にあります。なお、この地区の中心には国指定の重要文化財の五高記念館があり、本学の古き時代が保存されています。

所属部局:文学部、教育学部、法学部、大学院教育学研究科、大学院社会文化科学研究科、大学院法曹養成研究科、附属図書館、保健センター、国際化推進センター、大学教育機能開発総合研究センター、五高記念館、eラーニング推進機構、環境安全センター、教養教育機構、学生支援部、教育研究推進部(人文社会科学系事務ユニット、教育学部事務ユニット、図書館ユニット)、附属幼稚園、附属特別支援学校等

■ 黒髪南サイト (黒髪南地区、天草地区、益城地区)

県道337号線で黒髪北地区と分断され、白川沿いにある地区であり、高層建築物が目立ちます。部局としては理学部、工学部があり、自然科学系の各センターも設置されています。また事務局が設置されており、人の出入りが多い地区です。

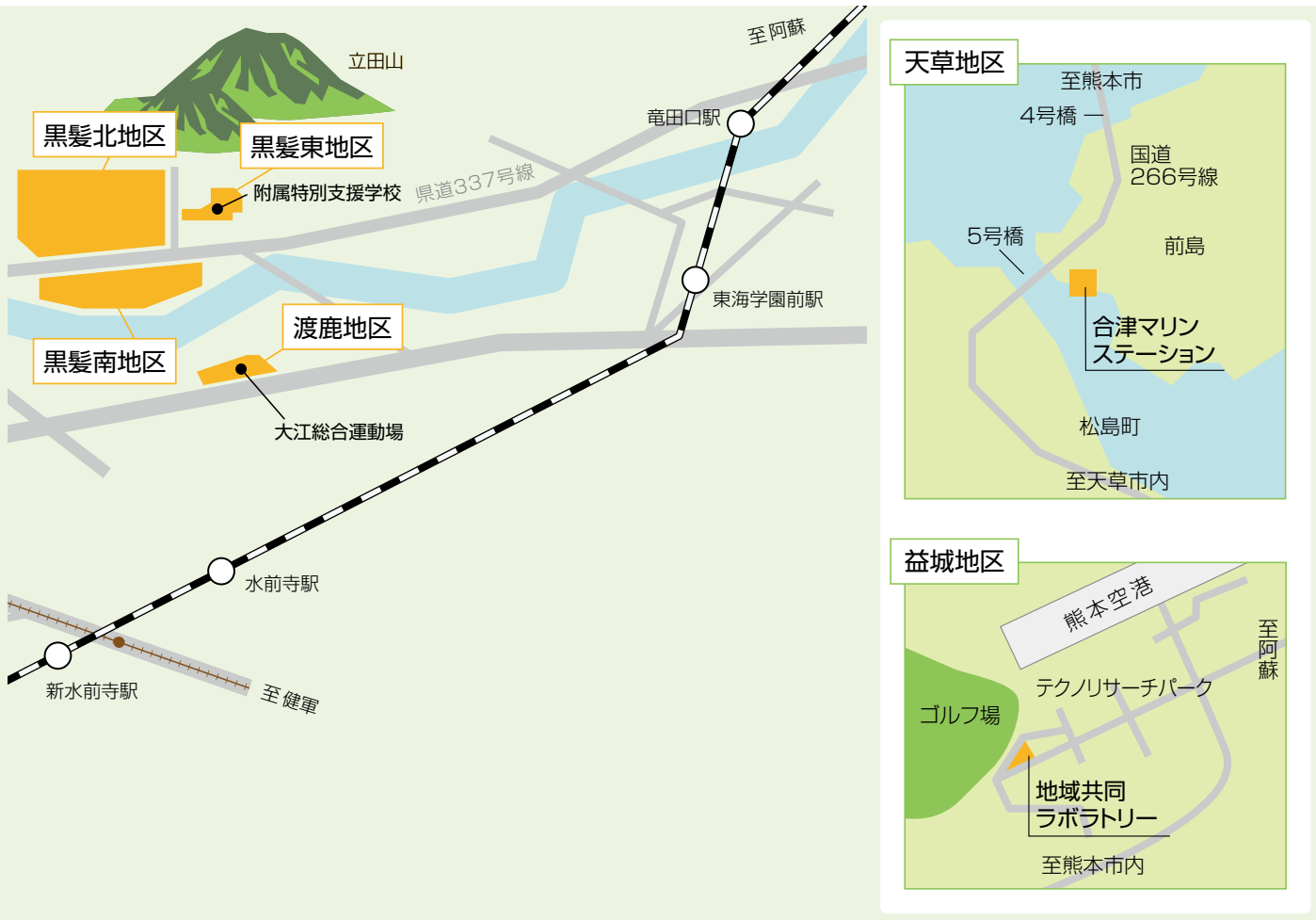
所属部局:理学部、工学部、大学院自然科学研究科、総合情報基盤センター、イノベーション推進機構(益城地区の地域共同ラボラトリーも含む)、政策創造研究教育センター、沿岸域環境科学教育研究センター(天草地区の合津マリンステーションも含む)、衝撃・極限環境研究センター、先進マグネシウム国際研究センター、パイオエレクトリクス研究センター、埋蔵文化財調査センター、経営企画本部、マーケティング推進部、教育研究推進部(自然科学系事務ユニット、契約ユニットの1チーム)、運営基盤管理部等

■ 本荘サイト (本荘北地区、本荘中地区)

黒髪南サイトと同様に白川沿いにある地区ですが、熊本市の中心街に近い場所にあります。部局は医学部、発生医学研究所や生命科学系の各センターがあり、基礎医学研究棟や(本荘)総合研究棟、動物資源開発研究施設、遺伝子実験施設、アイソトープ総合施設、発生医学研究所など高層建築物が目立ちます。

所属部局:医学部医学科、大学院生命科学研究部(医学系)、大学院医学教育部、発生医学研究所、生命資源研究支援センター、エイズ学研究センター、教育研究推進部(生命科学系事務ユニット、契約ユニットの1チーム、グローバルCOE推進ユニット)等

行われています。



■ 附属病院サイト (本荘北地区)

医学部附属病院があり、医師、看護師など多くの職員が医療に従事しています。また交通に便利な場所にあるため、バスや車などで多くの患者さんが来院されます。東病棟、西病棟、新中央診療棟などの高層建築物が目立ちます。

所属部局:医学部附属病院、医学部附属病院事務部等

■ 九品寺サイト (本荘南地区)

部局として医学部保健学科があります。福利施設や体育館、テニスコート、駐車場などが設置されています。

所属部局:医学部保健学科、大学院生命科学研究所(保健学系)、大学院保健学教育部、教育研究推進部(生命科学系事務ユニットの1チーム)等

■ 大江サイト (大江地区)

熊本市の中心街付近にあり、路面電車の駅から近い地区です。部局としては薬学部があり、機器分析施設、(大江)総合研究棟などの高層建築物が目立ちます。薬用資源エコフロンティアセンターの薬草園、薬木園もあり、緑の多い地区です。またグラウンドや体育館などもあります。

所属部局:薬学部、大学院生命科学研究所(薬学系)、大学院薬学教育部、教育研究推進部(生命科学系事務ユニットの1チーム)等

■ 京町サイト (京町地区)

熊本城の近くに位置した地区であり、附属小学校、附属中学校があり、それぞれの校舎の他に体育館やグラウンドがあります。

所属部局:附属小学校、附属中学校等

■ 大江総合運動場サイト (渡鹿地区)

合宿研修棟、体育館、弓道場、野球場、テニスコート、アーチェリー場、自動車部練習場があり、部活動スペースとして利用されています。

所属部局:学生サークル等

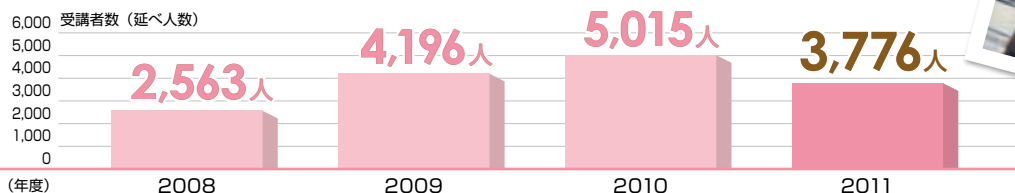
第02章 環境マネジメント活動

P09へ

- 1 環境報告書のデザインを一新しました。
- 2 環境報告ガイドライン(2012年度)に沿って編集しました。
- 3 環境監査を実施しました。
- 4 学部新入生を対象とした環境に関する導入教育が教養教育でスタートしました。



環境に関する教養教育の受講者数の推移



※2008-2010年度は、環境安全センターが実施した「環境安全に関する講義」の受講者数も含んでいます。

第03章 低炭素スタイル

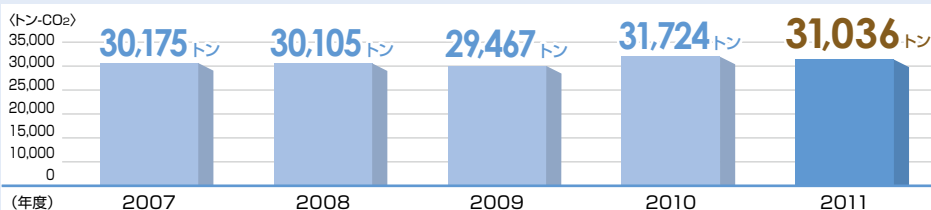
P23へ

- 1 エネルギー投入量は、前年度と比べて約4.7%削減できましたが、本学の基準年である2009年度と比較すると約3.2%増加しました。
- 2 延床面積原単位エネルギー投入量は、昨年度に比べて約4.3%減少しました。
- 3 温室効果ガス(CO₂)排出量は、昨年度に比べて約2.2%削減できました。
- 4 ノーマイカーウィークを実施しました。
- 5 自然エネルギーの効率的活用とスマートグリッド化の開発を目指した「エコ・エネ研究会」について掲載しました。

エネルギー投入量と延床面積原単位エネルギー投入量の推移



温室効果ガス(CO₂)排出量の推移



・キャンパスの実現に向けて環境活動に取り組んでいます。

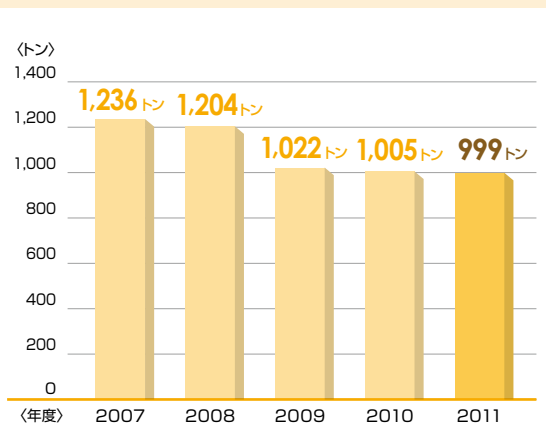
第04章 循環型スタイル



P39へ

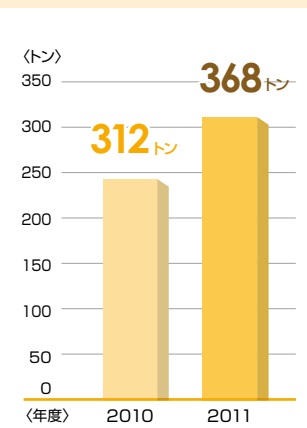
- 1 事業系一般廃棄物(可燃物+不燃物)の排出量は、前年度と比べて約0.6%削減することができました。
- 2 リサイクル原料収集量(アルミ缶・スチール缶+びん+ペットボトル+金属類+古紙類)は、昨年度に比べて約18%増加しました。
- 3 コピー用紙購入量は、前年度と比べて約7%増加しました。
- 4 「熊本大学における廃棄物処理に関する基本的事項」をまとめました。
- 5 有害物質を含む実験廃液の分別貯留方法を改正し、ポスターを作成して周知しました。

事業系一般廃棄物排出量の推移



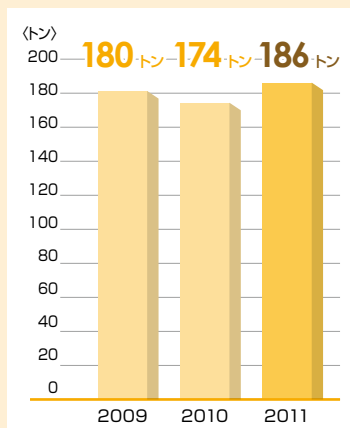
※事業系一般廃棄物排出量は、可燃物と不燃物の排出量の和で表しています。

リサイクル原料収集量の推移



※リサイクル原料収集量は、アルミ缶、スチール缶、びん、ペットボトル、金属類、古紙類の収集量の和で表しています。

コピー用紙購入量の推移



第05章 自然共生スタイル

P47へ

- 1 水資源投入量は、前年度と比べて約7.1%削減することができました。
- 2 クロロホルム、塩化メチレン、ノルマルヘキサンの取扱い量が1トンを超えた地区がありました。
- 3 排水水質測定において、ノルマルヘキサン抽出物質の基準値超過がありました。

水資源投入量の推移

